

‘Hoping to help you save Chiba’s nature’

千葉市緑区 ジェームズ・ライランド&ネラ・パウリアナ

私は25年間日本に住んでいますが、故郷はイギリスで、ほとんどの人生を小さな村で過ごしました。

昔から私は常に関東地方のこの近辺に惹かれてきました。リンカンシャーといくつかの類似点があります - 低い丘から平らの平野が続き、砂浜の海岸に至るところが非常に似ています。



雄蛇ヶ池にて私とネラ

妻と私は、東京での窮屈で過度に開発された生活から逃れ、自然に近づきたいと考えてここに来ました。

私たちはすでに周りの森林や畑、下大和田を含む、多くの散歩を楽しんでいます。

私は初めてこの下大和田町の開発計画についてオンラインで調べている最中に知りましたが、そんなことが考えられると本当に驚きました。残念ながら、この種の開発が日本全体で頻繁に許可され、自然の保全が行政から無視されていることは、あまり珍しくないと分かりました。

妻と私は、このグループの皆様と一緒に下大和田のような自然の場所を保全、または多くの人たちにこのような場所の保全の必要性を教育しようと最善を尽くしたいと考えています。



九十九里を思い出すイギリス東海岸
Chapel-St-Leonards

イギリスでは自然保護に対する高い意識があり、数百万人が National Trust や Royal Society for the Protection of Birds などの団体のメンバーです。私たちの小さな貢献が日本人も同じように環境に対する知識を高め、子供たちのために自然の美を保存する手助けになればと考えています。

下大和田 「キノコの観察と分類」秋 に参加して

八街市 内野 雅子

2023年10月1日、2回目のキノコの観察会に参加させていただきました。



採集したキノコを解説する吹春俊光さん(撮影:永嶋幸夫)

7月と同じく県立中央博物館の吹春俊光先生から、キノコの採集は「壊さない」「蒸らさない」「全部取ってくる」のが大事で、紙袋や新聞紙で包むようにという説明を受けて、早速採集に向かいました。今回は久しぶりの雨の後でしたがキノコ出現には

数日足りていなかったようで、やや不作ぎみでしたが、それなりに集まったようです。

前回と同様、先生が用意された「顕微鏡をつかわない、やわらかいきのこのわけかた」の資料に沿って順に解説していただきました。

「やわらかいきのこ」としては、ヒメカバイロタケ、ナラタケモドキ、モリノカレバタケ属、ハリガネオチバタケ、テングタケダマシ、コテングタケモドキ、テングタケ属2点、フクロツルタケ(毒)、コガネキヌカラカサタケ、ハラタケの仲間、ドウシントケ、アカキツネガサ、ウラベニガサ属、イグチの仲間など。

それ以外としては、クロコブタケ、チャワロンタケの仲間、ノウタケ、カワラタケ、ハカワラタケ、チリメンタケ、チャウロコダケ、スジウチワタケ、ニクウスバタケ、キアシクロタケ、ネンドタケ、アラゲキクラゲ、ツノマタタケ、などが見つかりました。

大きな株で複数見つかったナラタケモドキは、今年千葉市内で多く見つかったようで、ナラタケの仲間の広く張り巡らされた菌根は東京ドーム3つつ分もある例もあり、世界最大の生き物と言えるそうです。ナラタケの仲間は、樹皮をはがすと張り巡

らされているところが観察できるような根状菌糸束を作り、サクラやナラなどの腐ったところによく出る強力な木材腐朽菌なのだけれど、ランの仲間のツチアケビは入り込んできたナラタケを逆に食べてしまうという面白い話も伺えました。複数あったので、いろんな段階の状態を見ることができました。

テングタケダマシは傘のツブツブがピラミッド状に尖っていて、つばがあり、つばは壊れやすくテンテン模様になっているところなど、じっくり観察できました。ノウタケはほとんど崩れていましたが、割ってみたり胞子が飛ぶのを確かめたりしました。

お話の中で、千葉県にはマツタケは出ないけれど、匂いの強いバカマツタケや匂わないニセマツタケ、ウラベニホテイシメジなどが勝浦の朝市で売られていたとお聞きし、ちょうど勝浦に行く予定があったので楽しみにしていたのですが見られず残念でした。

帰りには「きのこの不思議」「きのここと森の密かな関係」という小冊子までいただき、帰宅してからもキノコの面白さに浸った一日となりました。ありがとうございました。



参加者一同(撮影:NPO クラブ 石井ゆう子)

朝日新聞の記事に下大和田の開発と 貴重種ミゾゴイの記事が載りました

2023年9月12日の朝日新聞朝刊に下大和田谷津田の開発とそこに残された希少な自然を紹介する記事が掲載されました。この記事は全部で三部に渡るシリーズ記事で、今回掲載されたのは3回目、シリーズの最後を飾る記事でした。

5月25日「35年ぶりに千葉市で絶滅したとされるキツネを発見?NPOが撮影」。

9月3日「豊かな里山 最後の稲刈り?」。

9月12日「予定地一部除外を」千葉市長意見
谷津田周辺開発巡り」

いずれの記事も、千葉市に残された貴重な自然が巨大な開発の為に消滅しようとしているという視点で書かれた内容でした。すべて同一の記者によって書かれています。

今回の記事には筆者の名前が登場します。貴重な鳥であるミゾゴイの幼鳥の撮影者としてです。朝日新聞の記者とは下大和田の稲刈りの日に取材に来られ、その時にお話をさせて頂きました。その後はメールや電話で今回の記事に関しての取材を受けました。

大網白里市 平沼 勝男

撮影当時の事はもちろんの事、ミゾゴイを開発以外、不徳なバードウォッチャーから守ること、ミゾゴイの種の同定についてなど、綿密な打ち合わせがありました。

記事が世に出る前日まで続き、最後は夜遅くまで内容をチェックすることで終了。正直、ここまでするのと思いました。

しかし、配達された記事を読むと素晴らしい内容に仕上がっていました。さすがはプロの仕事です。仕事関係の知り合いから記事を呼んだと連絡がありました。新聞の影響は大きいことをあらためて感じました。



ミゾゴイ幼鳥(平沼撮影)

新浜の話69 ～ポンプづきあい～

行徳内陸性湿地再整備工事第二期の検査終了は1997年3月26日。遅れた電気工事やポンプ設置の検査は5月9日。この日は小型ポンプが動かず、修理を終えた13日の翌日から、揚水能力をはじめ、何カ所ものコックをどう開けるとどれだけ水が出るか、等のチェックをはじめました。大きいポンプは日量2千トン、予備の小型ポンプは3百トンとわ

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

かったところで、5月26日にいよいよ稼働スタート。ところが、運転開始から30時間ほどで、吸い込み口の太いパイプがぺちゃんこにつぶれてしまいました。修理後、31日に再度運転開始。夜も3時間ごとに見回りに行き、ポンプが空気を吸って止まったりしないように気をつけました。しかし、30時間後にまたパイプがつぶれました。水を吸う強い

スロマン 作: 7月ま おおむね



ボくら人類はとんでもない回りをしているのかもしれない

陰圧にパイプが耐えられない構造だったのです。

当面は小型ポンプだけで様子を見ることにしました。必要な水量に届きませんが、セイタカシギが餌場になっている上池・竹内ヶ原の水だけは絶やさなためです。水源の湊排水機場はだいたい毎日排水しているので、タイマーでその時間帯はポンプを止めるのですが、排水時刻は一定していません。排水で水位が下がると空気を吸って揚水が止まり、その都度空気を抜く復旧作業が必要になります。毎日様子を見に行くと、週に2, 3回はポンプ復旧。まあ、慣れれば30分程度ですみますが。友の会が10年あまり使っている水中ポンプは、水中のモーターで水を吸いこんで押し上げる方式。水でも空気でも構わず上げます。でも希望した揚水量が確保できないとのことで、地上部のモーターから水を吸い上げて送り出すタービンポンプ（出力の割に揚水量が多い）が導入されました。

6月中に小型ポンプの本格的な水抜け・揚水不能の事態が3回起きました。2回はゴミ除けがこわれたためでしたが、1回は逆流防止弁にマッチ棒くらいの小枝がはさまったため。こんなごみは水中に無限にあります。そのたびに4mの垂直護岸を降りて、重い吸い込み口を岸に引き上げ、補修や必要な処置をしてまた戻すことに。小型ポンプでさえ、水が入った吸い込み口は20キロもの重さ。大型ポンプに至っては50キロ以上あるのです。

もうダメ、やってられません、とネを上げました。はるかにメンテが楽な水中ポンプに切り替えてください、とりあえずは友の会の手持ちポンプが使えますから、と。結局水中ポンプを併用し、小型ポンプで細々と揚水。12月28日から大型ポンプが使えるようになり、浄化池全体に水が入って大喜びしたのもほんの束の間、吸い込み口のジョイント部にすき間ができて、またストップ。

年が明けて1998年に入ってから、5月以来ずっとお願いしていた、どぶ池の水位が下がるとポンプが止まるようなスイッチの設置が実現しました。1月20日に工事とのことで、大喜びで石川君を差し向けました。ところが、とりつけに来られた孫請けの下請けの業者さんが受けていた指示と、こちらの希望がまるで真逆。千葉県・千葉建設・アライ照明・松本電工さんと電話が飛び交う大騒ぎに。実に単純明快な間違いで、ポイントは「奥の2台」ということば。元請さんは、入り口からみて「奥の2台」にあたるタービンポンプのつもりでいたのに、孫請けさんは分電盤からみた「奥の2台」の水中ポンプのつもりだった、というわけ。

おまけにこの時つけていただいたレベルスイッチは、テストを始めた翌日、水位が充分高いのに「減水」のランプがついて動かずじまい。修理済みと言われた大型ポンプも、同じ位置で空気を吸って全く復旧できず。さらに2台の水中ポンプのうちの1台まで、配線の抵抗値の関係で動かせず。ここまでくれば、もう、笑うっきゃない、というポンプづきあいでした。

【発送お手伝いのお願い】 ニュースレター2023年12月号（第316号）の発送を12月 6日（水）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか _____ キリトリセン _____

住所 〒 _____

ふりがな _____ Tel _____

氏名 _____ FAX _____

E-mail _____

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記：今年も皆さんに「下大和田谷津田ごよみ」2024年版をお届けすることができました。2015年の第1号から下大和田の四季折々の自然や生きもの、米づくりの様子などを、写真に短いメッセージを添えて作成してきました。そこには下大和田で開発計画が進む中、この生物多様性豊かな環境をいつまでも残していきたいというメッセージが込められています。多くの方にご利用いただければ幸いです。 mud-skipper

☆令和5年度期 あすみ小学校田んぼの稲刈り 2023年10月2日(月)

10月に入ると残暑が和らぎ秋も一段深まる空気でした。9月には台風による冠水被害、またイノシシによる度重なる進入被害もあり心配されましたが、全体的な収穫は良好な様子でした。大勢の保護者の方々にも参加頂き、とてもスムーズな作業でした。子どもたちからは立派にそだった稲に驚きや感動の声があふれていました。

☆令和5年度期 大椎小学校脱穀作業 2023年10月30日(月) 報告：赤シャツ親父

2台ある内の1台の足ふみ脱穀機が完全に破壊してしまっていました。事前に大修理を行いなんとか当日に間に合いました。すっかり秋も深まった晴れ空の下、5年生、6年生合同参加の最終稲作授業でした。6年生は手慣れたもの、5年生をリードする様子も見られました。時折、修理した足ふみ脱穀機が悲鳴をあげ冷や冷や。。やはり素人手作業は先人技に遠く及ばない。。収穫は大椎小過去最高の39.5kgでした。

【谷津田・季節のたより】 2023年10月

<下大和田町>

10/28 古代米脱穀と並行して、刈り払い機で自然観察路の整備を実施。生い茂っていたタケニグサなどの植物を刈り取り、観察路が歩けるようになった。ガビチョウが盛んにさえずる。

<小山町>

10/9 稲刈りが終わった田んぼでアキアカネとノシメトンボが産卵。 10/8 ヒヨドリの声が急増、北から渡ってきた群れか。 10/14 林の方からジョウビタキ or ルリビタキの鳴き声が聞こえてくる。田んぼからクサシギが飛び立つ。 10/18 今季初認のシメガカケスを追いかけていた。林縁でヤクシソウが黄色の花をつける。10/19 リス、コジュケイ、赤ちゃんヘビに遭う。 10/22 ノスリが谷津の上空を横切る。 10/25 林縁でサラシナショウマが咲く。 10/26 アカハラがミズキの実をついばんでいた。 10/28 オオアオイトトンボのオス・メスがつながってゆったり飛翔、田んぼにアキアカネの姿。

【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL.090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・第298回 下大和田YPP 家族で楽しもう！「もみすり体験会」

日時：2023年11月11日(土) 9時45分～14時 雨天中止

会場：谷津田ビジターセンター(〒265-0051 千葉市若葉区中野町1403 伊勢戸銘木店内)

内容：今年収穫したお米を玄米にします。ほか、アラブ料理を食す、お宝幼虫探し、谷津田の米販売ほか

持ち物：汚れてもいい服装で、マスク(防塵用)

参加費：300円(小学生以上) 要申し込み(yatuda.life@gmail.com)

・森と水辺の手入れ

日時：2023年11月19日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：畦の補修作業などをします

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第287回 観察会とゴミ拾い

日時：2023年12月3日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内容：木々の黄葉を楽しみながら冬越しにやってきた鳥たちを求めて谷津をめぐります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物

参加費：100円

・第299回 下大和田YPP「収穫祭」

日時：2023年12月9日(土) 9時45分～15時 雨天中止

場所：下大和田 わいわい広場

内容：今年最後のイベント、みんなで育てた緑米を使っておもちゃつきをして収穫を祝います。藁を編んで正月飾りを作ったり的当てゲームなど行います。 ※新型コロナウイルス感染状況により内容変更あり

持ち物：お椀とお箸、長袖長ズボンの服装、帽子、ゴミ袋、飲み物、敷物。

参加費：300円(小学生以上)

<小山町谷津田>

▼第220回 小山町YPP「脱穀米の唐箕がけと畦の整備」

日時：2023年11月19日(日) 10時00分～ ☆小雨決行

場所：りんどう広場

上記に限らず、参加ご希望の方は、赤シャツ親父(e-mail: tomizo_i@nifty.com)までご連絡下さい

